

アニメを中心としたソフトライツ収入が牽引して 売上高、営業利益は過去最高を達成

売上高

1,471 億
3 百万円

(前年同期比+3.1%)

営業利益

74 億
3 千万円

(前年同期比+16.2%)

親会社株主に帰属する
当期純利益

60 億
5 千 8 百万円

(前年同期比+41.3%)

1株当たり期末配当金

35 円

(特別配当10円含む 年間配当50円)

総資産

1,235 億
3 千 5 百万円

純資産
(自己資本比率)

839 億
2 千 8 百万円

(65.9%)

1株当たり配当金

グループの成長と企業価値の増大、長期的な経営基盤の充実に向けた内部留保とのバランスを考慮し、安定的な配当の継続を重視しつつ、業績に応じた利益還元をめめます。
1株当たりの配当金は年額20円を下限とした安定配当に加えて、業績に連動した配当として、連結ベースで配当性向30%を目標にしています。
(2019年3月期 配当予想)年間配当1株当たり40円(中間配当1株当たり15円、期末配当1株当たり25円)

2019年3月期 業績予想

売上高 …………… 1,525億円
(前年同期比+3.7%)

営業利益 ……… 60億2千万円
(前年同期比-19.0%)

テレビ東京 (地上波放送事業)

■売上高	1,145億9千3百万円 (前年同期比+1.9%)
■営業利益	75億2千8百万円 (前年同期比+19.8%)

番組を提供するタイムCM収入は、前年の「リオデジャネイロ・オリンピック2016」の反動があった分、わずかながら減収となりましたが、レギュラー番組のセールスが計画以上に推移するなど、ほぼ前年と変わらない安定した収入を得ることができました。

一方、番組と番組の間に流すスポットCM収入は、需要に対するCM枠の不足もあつた中で、積極的なプロモーションを行い、過去最高となる7%のシェアを達成しました。

ソフトライツ収入はアニメ事業で、国内では「NARUTO」「遊戯王」のゲームの売上が伸びたほか、海外では中国をはじめとした「NARUTO」の配信、ゲームが好調を維持しています。新たに「NARUTO」の続編「BORUTO」も順調に売上を伸ばしました。

また、コンテンツ事業では、「孤独のグルメ」「勇者ヨシヒコ」など人気ドラマシリーズの印税収入や、配信会社と連動した深夜ドラマの配信権収入が引き続き好調で、収益増に貢献しました。

【連結子会社】(株)テレビ東京

BSジャパン (BS放送事業)

■売上高	160億8千9百万円 (前年同期比+1.9%)
■営業利益	9億7千8百万円 (前年同期比-22.4%)

BS放送事業の(株)BSジャパンは、ドキュメンタリーなどの特別番組のセールスが堅調だったことに加えて、一社提供のミニ番組など企画営業によって、レギュラー番組のセールスを底上げし、スポットCM収入の減少をカバーしました。

また、BSオリジナルの4Kコンテンツへの製作出資を開始し、配信などのソフトライツ事業や、通販、イベントでも売上を伸ばしました。

【連結子会社】(株)BSジャパン

グループ会社 (放送周辺事業・下記参照)

■売上高	371億3千7百万円 (前年同期比+6.4%)
■営業利益	21億7千8百万円 (前年同期比+1.0%)

通信販売を扱う(株)テレビ東京ダイレクトは、平日午前帯の「なないろ日和!」での通販などが順調に売上を伸ばし、広告関連売上も好調で過去最高売上を記録しました。

また、CS放送のアニメ専門チャンネルの(株)エー・ティー・エックスは、広告関連売上の上の大幅な増加や、投資作品が好調だったことから過去最高売上となりました。

【連結子会社】(株)テレビ東京ミュージック／(株)テレビ東京メディアネット／(株)テレビ東京コマース／(株)テレビ東京アート／(株)テレビ東京システム／(株)テレビ東京制作／(株)テレビ東京ダイレクト／(株)テレビ東京ヒューマン／(株)テクノマックス／(株)テレビ東京ビジネスサービス／(株)エー・ティー・エックス／TV TOKYO AMERICA, INC.

テレビ東京コミュニケーションズ (インターネット・モバイル事業)

■売上高	67億6千8百万円 (前年同期比+20.3%)
■営業利益	3億8千8百万円 (前年同期比-2.8%)

インターネット・モバイル事業の(株)テレビ東京コミュニケーションズは、クロスメディア広告売上、動画配信関連売上が好調だったことに加えて、お取り寄せグルメ「虎ノ門市場」のカタログ販売などが売上を伸ばしました。

また、キャラクター事業の海外ライセンス売上も順調に推移しました。

【連結子会社】(株)テレビ東京コミュニケーションズ